

公益社団法人 地盤工学会 調査・研究部
 令和元年度第2回調査・研究部全体会議 通算第2回調査・研究部会
 議事録

日時	令和元年 8月30日(金) 15:00~17:40		場所	電子会議	
部長	高橋 直樹 (三井住友建設)	○	理事	川端 伸一郎 (北海道科学大学)	◎
副会長	堀越 研一 (大成建設)	×			
幹事長	高野 大樹 (港空研)	◎	副幹事長	森口 周二 (東北大学)	◎
研究・連携・情報委員会			幹事	鈴木 健介 (鹿島建設)	◎
ワ幹事	橋本 則之 (不動テトラ)	◎	★部員	山田 卓 (大阪市立大学)	◎
★部員	中井 健太郎 (名古屋大学)	◎	ワザハ	後藤 茂 (早稲田大学)	◎
研究発表会委員会			幹事	笠間 清伸 (東京工業大学)	◎
★ワ幹事	清田 隆 (東京大学)	×	部員	内村 太郎 (埼玉大学)	×
部員	高井 敦史 (京都大学)	◎	ワザハ	高野 大樹 (港空研)	◎
ワザハ	川井 康右 (川崎地質)	○	ワザハ	倉知 禎直 (オリエンタル白石)	×

配付資料

資料番号	資料
資料-1-2.0	令和元年度 第1回 調査・研究部運営会議議事録(案) (R1/6/27 開催)
資料-1-2.1	令和2年度 事業方針・計画(案)、予算(案)作成のお願い
資料-1-2.2	第22回事業企画賞候補案および審査員の選出依頼
資料-1-2.3	令和元年度 学会賞候補推薦のお願い
資料-1-2.4	平成31年度 新設研究委員会テーマ案募集 会告
資料-1-2.5	令和元年度 研究委員会競争的研究費の年間予算配分
資料-1-2.6	次世代地盤改良技術に関する研究委員会主催講演会開催計画
資料-1-2.7	令和元年度 岩盤工学企画委員会構成案
資料-1-2.8	岩の力学連合会賞選考委員推薦のお願い
資料-1-2.9	第62回地盤工学シンポジウム テーマ案
資料-1-2.10	第56回地盤工学研究発表会(東北大会)開催日程および会場第56回地盤工学研究発表会 開催支部への依頼
資料-1-2.11	論文投稿システムの紹介
資料-1-2.12	第55回地盤工学研究発表会(京都大会)第1次予算案
資料-1-2.13	第55回地盤工学研究発表会ディスカッションセッション
資料-1-2.14	第54回地盤工学研究発表会参加者アンケート結果
資料-1-2.15	第54回地盤工学研究発表会優秀論文発表者賞受賞者リスト
資料-1-2.16	令和元年度理事会議事録(案) (R1/7/26 開催)

- I. 前回 (R1/6/27 開催) 調査・研究部会全体会議議事録の確認 (資料-1-2.0, pp.1-7)
⇒前回 (H31/6/27 開催) 調査・研究部会全体会議議事録が確認された。

II. 全体関係

[審議事項]

1. 調査・研究部 令和2年度事業計画および予算案 (資料-1-2.1, pp.8-15)
⇒令和2年度事業計画および予算案の概略案が示された。次回の委員会の際に最終調整を行うため、修正・追加が必要な部分などについて意見があれば高橋部長に連絡する。
2. 第22回事業企画賞候補案および審査員の選出 (資料-1-2.2, pp.16-31)
⇒例年同様に各部長宛に候補の確認が来ている。思い当たる候補があれば、高橋部長に連絡する。調査・研究からの審査員は高野幹事長に決定した。昨年度は電子図書室を候補とした。
3. 平成30年度地盤工学会賞 候補ご推薦のお願い (資料-1-2.3, pp.32-35)
・10月2日締切
4. 調査・研究部会 部員の追加
川井 康右 氏 (川崎地質株式会社 首都圏授業本部 地盤2部長) ※JGS 会員
倉知 禎直 氏 (オリエンタル白石株式会社 技術本部技術部技術チーム 副部長) ※JGS 会員
⇒両名とも研究発表会 (全国大会) に関する担当をお願いする。それぞれの紹介があり、承認された。

[報告事項]

5. 創立70周年記念事業の調査・研究部担当
 - 1) 第13回環境地盤工学シンポジウム
⇒後に関連する項目があるので、その部分で議論することとした。
 - 2) 研究委員会の変遷のまとめ
⇒資料が示された。WEB掲載に向けて準備を進めていく旨の説明があった。
6. 東日本大震災合同調査報告書の商品在庫数 (7月末現在)
Aセット (3冊組、20,000円) : 7セット/100セット、 Bセット (2冊組、14,000円) : 188セット/200セット
共通編 : 9冊、 地盤編1 : 101冊、 地盤編2 : 52冊
⇒在庫が売れないのであればどうするかを議論すべきということになり、次回の委員会にて議論することを決定した。
7. 過年度未収金
エネルギーに基づく液状化予測手法に関するシンポジウム (2019.3.26) 1件 5,000円 ←8月27日催促
⇒未収金は無くなった。

III. 研究・連携・情報委員会

[審議事項]

8. 研究委員会関係
 - 1) 令和2年度新設研究委員会テーマ公募 (学会誌11・12月合併号会告掲載) (資料-1-2.4, p.36)
⇒昨年度の資料が示された。採択されない可能性があることも明記することを決定した。
 - 2) 研究委員会 R1 年度年間活動計画および予算案 (資料-1-2.5, pp.37-40)
橋本部員 : 次世代地盤改良技術に関する研究委員会 → 15万円
⇒10月に海外の研究者を招聘して講演会を実施する予定。講師謝金について確認することとなった。
山田部員 : 地盤環境汚染対策の科学的合理性判定のための調査・試験・評価法に関する研究委員会 → 3万円
⇒9月に第1回の委員会を開催する予定。現段階では、具体的な活動内容が確定していないため、今後、予算が増える可能性もある。最新の委員名簿と予算案を提出して貰うように依頼することを決定した。
中井部員 : 未曾有の豪雨により複合化した土砂・水災害に遭遇する時代に突入した地盤技術の今後と社会的な方策に関する研究委員会 → 7.5万円
⇒「委員会資料の作成補助謝金」について、具体的な説明を求めることを決定した。中井部員から確認する。
・委員会予算額 35万円/年
・各委員会の活動計画および予算案に関するアンケートを実施
・スケジュール
アンケート提出期限 : 8月16日

調査・研究部審議：8月30日

各委員会への連絡：9月上旬

- 3) 次世代地盤改良技術に関する研究委員会主催講演会開催計画 (資料-1-2.6, p.41)
⇒資料のとおり説明があった。
 - 4) 令和元年度岩盤工学企画委員会構成案 (資料-1-2.7, p.42)
委員長交代：横尾 敦 氏 (鹿島建設) → 安原 英明 氏 (愛媛大学)
⇒原案のとおり承認された。
 - 5) 岩の力学連合会連合会賞選考委員の推薦 (9月2日締切) (資料-1-2.8, pp.43-44)
小山 倫史 氏 (関西大学) 森川 誠司 氏 (鹿島建設)
⇒原案のとおり承認された。
9. シンポジウム関係
- 1) 第62回地盤工学シンポジウム (2020年開催) (資料-1-2.9, pp.45-46)
・2019年10月までにテーマ案決定
⇒過去のデータとともに、シンポジウムのテーマ(2案)が示された。「地盤工学におけるデータの品質と信頼性、その有効利活用」を軸として進めていくことを決定した。講師候補がいれば、中井部員へ情報提供するようこの依頼があった。
10. 情報関係
- 1) 図書室整理の課題に対する対応 (資料-1-2.10, p.47)
⇒図書館に蔵書が5000冊程度あり、半分程度が地盤工学会の出版物。これらの整理作業について、派遣会社および専門業者へのヒアリング結果が示された。可能な限り電子化を進めるべきという意見が多く、次年度以降に業者に電子化を依頼する方針とすることを決定した。橋本部員が業者に電子化を前提とした見積もりを再度お願いする。

[報告事項]

11. 研究委員会関係
 - 1) 廃炉地盤工学委員会主催講習会 開催計画
 - a. 「現場実験から把握する地下水の実流速(その3)」に関する講習会
日時：2019年10月18日(金) 9:00~16:30 場所：日本大学文理学部 参加費：無料
発議日：2019年7月24日~29日(部会メール審議)：承認した。
 - b. 「福島第一原子力発電所の廃止措置への貢献を目指す『廃炉地盤工学』」に関する講習会
日時：2019年12月10日(火) 14:00~17:30 場所：JGS会館 参加費：無料
発議日：2019年7月24日~29日(部会メール審議)：承認した。
12. シンポジウム関係
- 1) 第13回環境地盤工学シンポジウム(2019.9.10-11、札幌)準備状況報告
・論文数：86件、事前参加申込数：145名(一般会員101名、プレミアム会員2名、学生会員34名、非会員8名)、懇親会申込数：75名(一般64名、学生11名)
⇒資料のとおり説明があった。

IV. 研究発表会委員会

[審議事項]

13. 第56回地盤工学研究発表会(東北大会)開催日程および会場 (資料-1-2.11, pp.48-51)
⇒開催日を2021年7月13-15日、開催地を山形県、会場を山形国際ホテルと山形テルサの2会場とする東北支部の案が示され、これを承認した。
14. 第55回地盤工学研究発表会(京都大会)
⇒運営に関わる業者発注に関する情報が示された。議論の結果、フジヤに依頼することを決定した。
- 1) 論文投稿システムの変更 (資料-1-2.12, pp.52-68)
⇒新システム(Atlas社:Confit)の候補の情報が示され、これを承認した。来年度の京都大会から導入予定。個別の対応が難しくなるため、事前に投稿ルールを厳格化する必要があると確認された。
- 2) 予算案 (資料-1-2.13, pp.69-83)
⇒過去のデータとともに予算案が示された。
- 3) ディスカッションセッション (資料-1-2.14, pp.84-88)

⇒今後のDSの位置づけを検討するために、DSの現状や課題の説明があった。今後、全国大会の他のイベントとの絡みも含めて継続的に議論を行う。京都大会については、DSの募集は例年通りの方法で進め、実際の運営については今後の議論で決めていく。

15. 第54回地盤工学研究発表会（さいたま大会）

1) 講演集の販売および販売価格

- ・DVDは作成しない。データとして販売。販売ツールは、電子図書室。基準のDL販売と同様とする。作業費必要。
- ・定価：18,000円 会員特価：13,000円 とともに税別（非会員の当日参加費と同額）

⇒上記価格を承認した。

16. 今後の検討

- ・若手座長制度のルール作り（さいたま大会での課題）
 - 英語ができない
 - 各種問合せあり（服装や集合時間・場所について）
 - 新入会の手続きが遅い。事前参加申込みをしない。
- ⇒本年度全国大会で質問が多く寄せられたため、今後ルール作りを進める予定であるとの説明があった。
- ・研究発表会参加証のIC化（事務作業の効率化）
 - ・研究発表会をより魅力的なものにするための方策について検討し、実行する。「特別技術者セッション」
 - 民間からの参加者を増やす。研究所所属の方だけではなく、設計・現場で勤務する方々まで。
 - 建築分野の地盤技術者の参加者を増やす。

[報告事項]

17. 第54回地盤工学研究発表会（さいたま大会）

1) 参加者アンケート結果

(資料-1-2.15, pp.89-90)

⇒今後の目を通しておくように。

2) 優秀論文発表者賞受賞者：132名

(資料-1-2.16, pp.91-92)

発議日：2019年7月29日～8月1日（部会メール審議）：承認した。

8月22日 受賞者をWEBで公表、8月29日 受賞者にメール連絡

3) 当日申込参加者数

一般会員：332名、学生会員：20名、非会員（一般）：69名、非会員（学生）：33名、合計：454名
（第53回大会：一般会員：240名、学生会員：20名、非会員（一般）：93名、非会員（学生）：14名、合計：367名）

⇒資料のとおり説明があった。

V. その他

18. 7月理事会報告

(資料-1-2.17, pp.93-99)

⇒資料のとおり報告があった。大きなものとしては、全国大会の展示出展料の20%を本部へ計上すること（京都大会より開始）と2021年度大会に関する東北支部への依頼に関する報告があった。

19. 理事会（令和元年9月20日（金））開催への審議事項・報告事項

[予備審議事項]

[審議事項] 山形大会の開催日と会場について、投稿システム変更について

[報告事項]

20. 総務部会（令和元年9月10日（火）開催予定）への提案事項

⇒特になし。

★ 令和元年度 調査・研究部会 開催日程（予定含む）

- ① 6月27日（木）
- ② 8月30日（金） ※WEB審議
- ③ 10月8日（火）
- ④ 12月6日（金） ※WEB審議
- ⑤ 4月3日（金）

★ 令和元年度 理事会 開催日程 (予定含む)

- ① 4月19日(金) ※書面審議
- ② 5月17日(金)
- ★ 6月7日(金) 総会/理事会
- ③ 6月14日(金) ※書面審議
- ④ 7月26日(金)
- ⑤ 9月20日(金)
- ⑥ 10月25日(金) ※書面審議
- ⑦ 11月22日(金)
- ⑧ 12月20日(金) ※書面審議
- ⑨ 1月24日(金)
- ⑩ 2月21日(金) ※書面審議
- ⑪ 3月13日(金)

-
- ⑫ 4月17日(金) ※書面審議
 - ⑬ 5月15日(金)
 - ★ 6月5日(金) 総会/理事会